

高等学校における コミュニティ・スクール導入に よる成果

横浜市立
横浜サイエンスフロンティア高等学校

Yokohama Science Frontier High School



横浜サイエンスフロンティア高校

I YSFHの特色



- 学校概要・沿革・教育方針
- スーパーアドバイザーと科学技術顧問
- SSH・SGHの指定
- YSFHのカリキュラム
- 教科「サイエンスリテラシー」
- 海外研修(マレーシア)

学校概要

◆開校 平成21年4月（横浜開港150周年記念事業）

◆所在地 横浜市鶴見区小野町6

（JR鶴見線鶴見小野駅より徒歩2分）

◆学科・学級規模 理数科3学年18学級720名

平成27年度在籍生徒数

1年生 男子 188名 女子 48名

2年生 男子 185名 女子 51名

3年生 男子 184名 女子 50名

◆教育理念

「先端科学技術の知識・智恵を活用して、
世界で幅広く活躍する人間」の育成

◆横浜市教育委員会指定 進学指導重点校

沿革

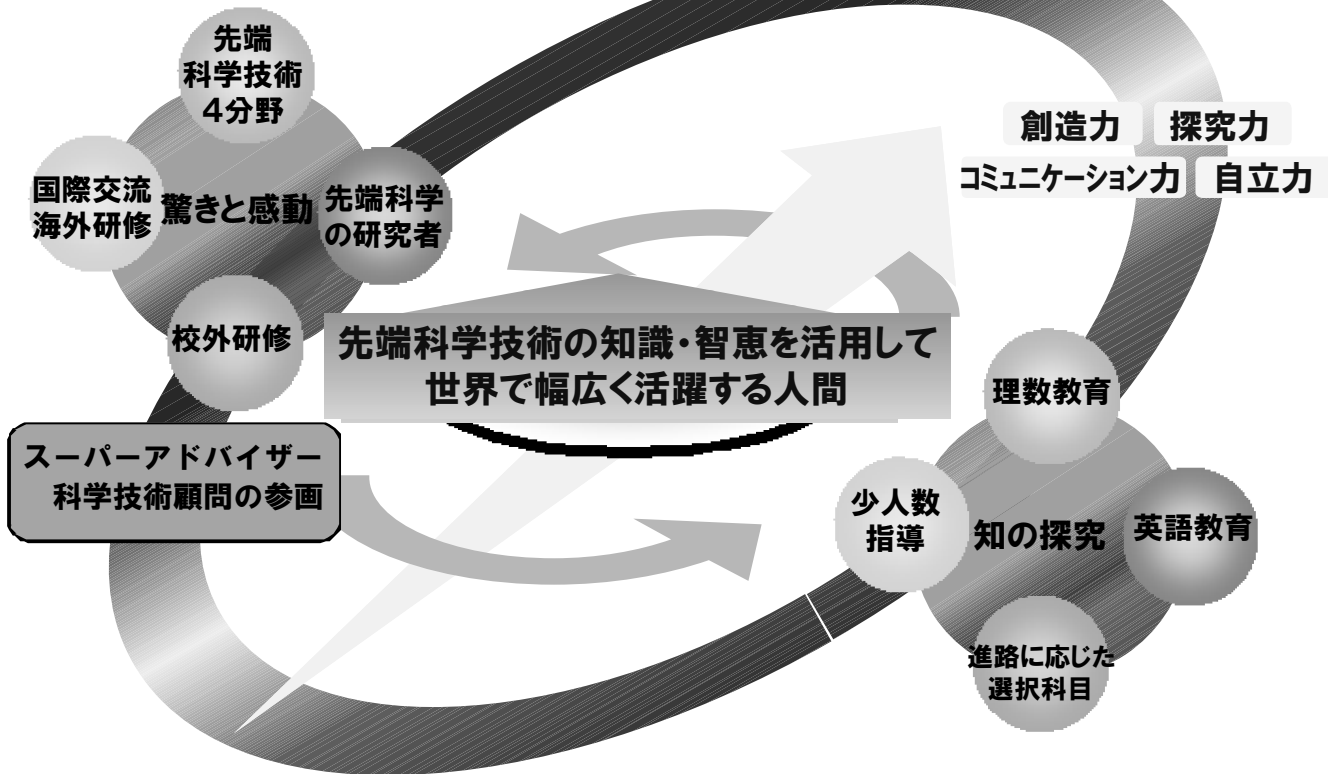
平成12年 3月	横浜市立高等学校再編整備計画策定
平成16年 1月	科学技術高等学校（仮称）アドバイザー委員会報告
平成16年12月	科学技術高等学校（仮称）基本構想策定
平成17年12月	科学技術高等学校（仮称）基本計画策定
平成20年 4月	開設準備室設置
平成21年 4月	開校記念式典、第一回入学式挙行
平成22年 4月	スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定校に決定 （5年間指定）
平成23年 4月	コアSSHの採択校に決定
平成24年 4月	コアSSHの採択校に決定（3年間指定） 横浜市教育委員会「進学指導重点校」に指定
平成26年 4月	スーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定校に決定 （5年間指定）
平成27年 4月	スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定校に決定 （5年間指定） 科学技術人材育成重点校採択校に決定（3年間指定）

教育方針

— 驚きと感動による知の探究 —

将来の進路

大学進学 海外留学 先端研究 起業



スーパーアドバイザー

和田 昭允 先生

東京大学名誉教授
理化学研究所研究顧問

有馬 朗人 先生

根津育英会 武蔵学園長、元東京大学総長、元文部大臣

藤嶋 昭 先生

東京大学特別荣誉教授、東京理科大学学長

Harold Kroto 先生

ノーベル化学賞受賞(1996)、フロリダ州立大学教授、横浜市立大学名誉博士

浅島 誠 先生

産業技術総合研究所フェロー兼幹細胞工学研究センター長、東京大学名誉教授、
横浜市立大学名誉教授、国際大学協会理事、生物科学学会連合代表、日本学術振興会理事

科学技術顧問 (4研究機関8名)

理化学研究所横浜事業所 宇宙航空研究開発機構
海洋研究開発機構 日本医療研究開発機構

(11大学関係者27名)

慶應義塾大学(大学院) 東京理科大学(大学院)
工学院大学 横浜国立大学(大学院)
総合研究大学院大学 横浜市立大学(大学院)
東京工業大学 立命館大学
東京大学(大学院) 早稲田大学
東京都市大学

平成27年10月現在

科学技術顧問 (企業25社)

旭硝子(株) (株)ANA総合研究所
味の素(株) (株)扇島パワー
(株)エッチ・ディー・ラボ 京三電設工業(株)
(株)学研ホールディングス JX日鉱日石エネルギー(株)
(株)クレハ (株)JVC・ケンウッド
JFEエンジニアリング(株) (株)鶴見精機
月島機械(株) 東京電力(株)
東京ガス(株) 日揮(株)
(株)東芝 日本アイ・ビー・エム(株)
日産自動車(株) 日本マイクロソフト(株)
日本電信電話(株) 三菱化学(株)
(株)日立製作所 横浜モバイルプラネタリウム
(株)ユーディット

平成27年10月現在

平成22年度 SSH指定校

研究開発課題

横浜サイエンスフロンティア地区(京浜臨海部研究開発拠点)に位置する立地条件と小学校から大学までを設置する横浜市の特性を生かした研究及び開発を進める。

- (1) 科学する心を育成する教育環境の構築
- (2) 知識・知恵連動の教育プログラムの開発
- (3) 世界に通用するコミュニケーション力の育成

平成22年度～26年度の5年間、研究活動を実施

平成23年度より、コアSSH校にも指定(1+3年間)

平成26年度 SGH指定校

研究開発課題

内外の多様な教育資源を活用した

グローバル・リーダー教育の研究開発

アジアを中心とした地域の「環境保護」や「持続可能な開発」に関する課題を社会学や経済学、教育学、国際ビジネス等の視点から研究し、グローバル・ソリューションを探求する

平成26年度～30年度の5年間、研究活動を実施

平成27年度 SSH指定校 再指定

研究開発課題【実践型】

高等学校を中心とした、小学校から大学まで一貫した知識・
知恵連動の科学教育プログラムの開発と普及

- (1) 科学する心を育成する教育環境の構築
- (2) 知識・知恵連動の教育プログラムの開発
- (3) 世界に通用するコミュニケーション力の育成
- (4) グローバルサイエンスキャンパスとの連携
による高大接続の研究

平成27年度～31年度の5年間、研究活動を実施

合わせて、科学技術人材育成重点校採択校となる
(全国で5校一中核拠点として3年間、研究活動を実施)

グローバル・リーダー育成に向けて

SSH

学校設定科目
「サイエンスリテラシー」

土曜日の特別活動
「サタデー・サイエンス」

自然科学

SGH

学校設定科目(予定)
「グローバル・スタディーズ」

土曜日の特別活動
「サタデー・ヒューマン
・スタディーズ」

社会科学
人文科学

内外の多様な教育資源を利用した
グローバル・リーダー教育の研究開発

高い学力を育成するカリキュラム

(平成27年度入学生)

1年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
	SL I	理数数学 I				理数物理	理数化学	理数生物	理数情報 A-B	現代社会 (GSI)	芸術	保健	体育	国語総合				コミュニケーション英語 I	OC PD I	LHR															
	2年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
SL II GS II		理数数学 II			理特論数学	理数理科 (物・化・生・地) から 2科目選択				世界史A	日本史A	家庭基礎	保健	体育	現代文 B	古典B	コミュニケーション英語 II	OC PD II	LHR																
3年		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
	理数数学 II	体育	現代文 B	リスケルズング	ライスキルズング	理数数学探究		選択科目(最大16単位) 6単位以上選択																LHR											
						理数数学研究																													
選択科目(最大20単位) 10単位以上選択																																			

研究活動の基本となる考え方を
4つのステップで育てます。

サイエンスリテラシー I (1年次)

STEP1 研究基礎

科学的思考力の育成

総合テーマ「環境」
ディベート大会
グループ研究
研究発表会
英語プレゼンテーション
発表会

STEP2 先端科学実験

先端科学4分野の実験

生命科学分野
ナノテクノロジー材料分野
環境分野
情報通信分野
課題研究ゼミ選択

発生のサイエンス

横浜市立大学国際総合科学部教授 科学技術顧問 内山英穂先生



1年SL

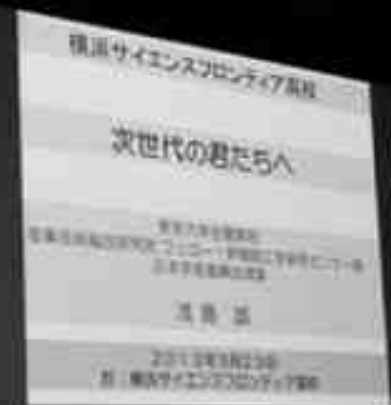


燃料電池自動車 科学技術顧問 日産自動車株式会社

特別講演 東京大学特別栄誉教授 東京理科大学学長
スーパーアドバイザー 藤嶋 昭先生



1年 Saturday
Science



特別講演 産業技術総合研究所フェロー 東京大学名誉教授
スーパーアドバイザー 浅島 誠 先生

サイエンスリテラシーⅡ (2年次)

STEP3 課題研究ゼミ

ゼミによる探究活動

テーマ設定
大学研究室連携
調査研究
中間発表会
研究成果のまとめ

STEP4 研究発表

研究発表

優秀研究発表
ポスターセッション
最終発表会
科学賞・コンクール参加
国際オリンピック挑戦
海外研修英語プレゼン

生命科学分野



地球科学分野



中間発表会



ナノテク材料・物理分野



海外研修 <SLⅡ・GSⅡ発表>



全員が高校で発表(英語で)

2年



近代的発展と大自然が
共存する国

「マレーシア」



代表生徒は
マレーシア科学大学でも発表

横浜サイエンスフロンティア高校

II

YSFHにおける学校運営協議会



- 設置の経過・ねらい・委員の構成
- 在校生出身中学校(地域)
- 学校運営組織図
- 横浜型コミュニティスクール
- 学校運営に関する意見＝支援
- 教育委員会への意見書

学校運営協議会設置の経過

- 平成21年4月 YSFH開校
- 平成21年6月 学校運営協議会設置の指定
(横浜市立高等学校として初めて)
- 平成21~22年 年1回の会議開催
- 平成23年 年3回の会議開催
- 平成24年4月 横浜市教育委員会より再指定
- 平成24~26年 年4回の会議開催
- 平成27年4月 横浜市教育委員会より再指定

学校運営協議会設置のねらい

- 学校運営と教育活動への学校外からの積極的な支援を得ていく。
- 特に大学や研究機関、企業との連携を進め、「サイエンス教育」を推進するための具体的な提言と実行への積極的な協力を得ていく。
- 学校運営や教育内容の改善・充実及び生徒の健全育成に向けた助言を受け、学校の活性化を図る。

横浜市立学校のパイオニア校としての期待

学校運営協議会委員(9名)の構成

地域住民 (2名)	地元(鶴見区)企業代表取締役会長	地元工業会理事
	地元(鶴見区)企業代表取締役会長	地元ロータリークラブ理事
保護者 (2名)	保護者と教職員の会 副会長	
	保護者と教職員の会 書記	
学識経験者 (3名)	理化学研究所研究顧問	常任スーパーアドバイザー
	理化学研究所横浜事業所長	教育連携協定先
	横浜市立大学教授	教育連携協定先
教育委員会が 適当と認める者 (2名)	横浜創英大学学長	特別科学技術顧問
	校長	

「サイエンス教育」と「地域」のとらえ方に特徴

出身中学校別生徒数

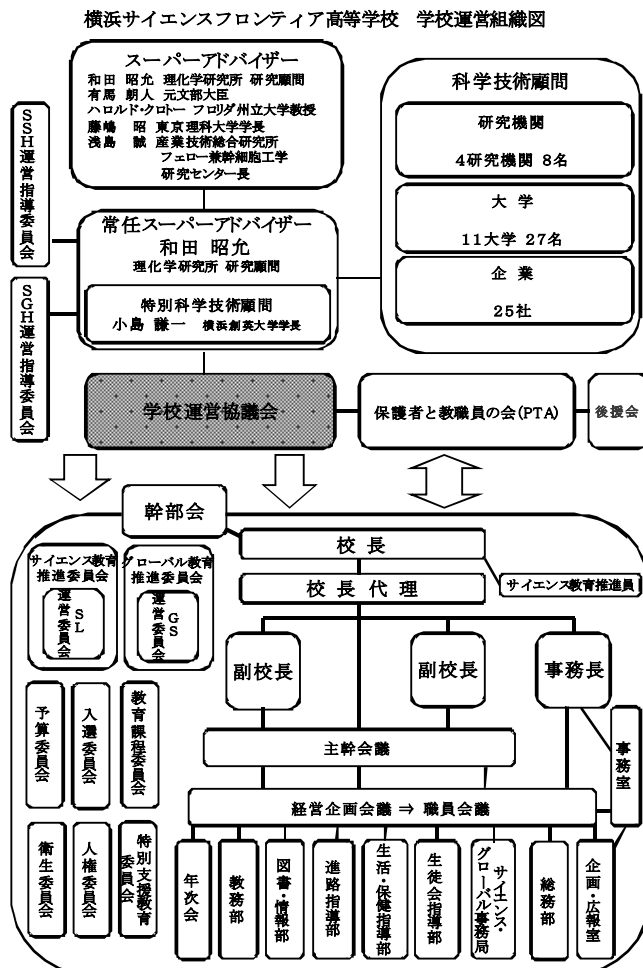
全県学区

	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生
横浜市立 中学校	155 (65.4%)	122 (51.7%)	154 (64.7%)	139 (58.9%)	138 (58.2%)
県内公立 中学校	66 (27.8%)	106 (41.1%)	77 (32.3%)	87 (36.9%)	86 (36.3%)
県内国立 中学校	11 (4.6%)	9 (3.8%)	2 (0.8%)	5 (2.1%)	8 (3.4%)
県内私立 中学校	1 (0.4%)	3 (1.3%)	2 (0.8%)	3 (1.3%)	4 (1.7%)
県外 国公立中学校	3 (1.3%)	3 (1.3%)	2 (0.8%)	2 (0.8%)	1 (0.4%)
県外私立 中学校	1 (0.4%)	2 (0.8%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
海外日本人 学校	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

在校生出身中学校別生徒数 (横浜市立中学校)

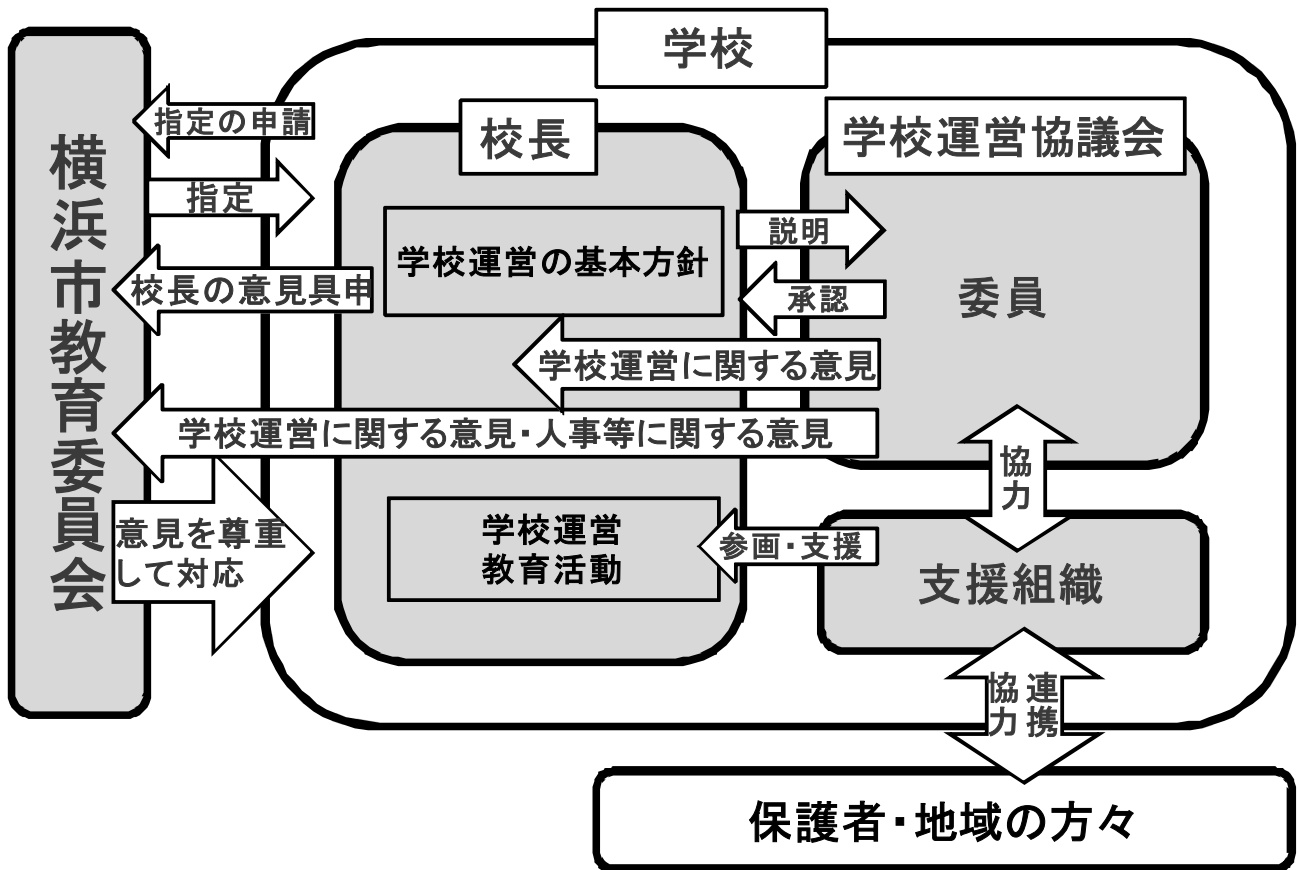
都筑区	58	南区	21
青葉区	52	神奈川区	20
港北区	36	瀬谷区	18
鶴見区	35	金沢区	16
緑区	31	泉区	14
戸塚区	28	中区	10
旭区	26	西区	9
港南区	23	栄区	7
保土ヶ谷区	21	磯子区	5

YSFHの学校運営協議会
スーパーアドバイザー、科学技術顧問、
SSH・SGH運営指導委員会等と学校を
つなぐ役割も担う



YSFHの学校運営組織図

横浜型コミュニティスクール



学校運営に関する意見＝支援

—校長を強力にサポート—

・「幹部会」の設置

常任SA・特別科学技術顧問・管理職
担当指導主事出席の月1回の会議

・職員研修会での講演

学校理念の継承を目指す

・SL運営委員会の運営

特別科学技術顧問が主宰

・ファンドの設立

「国際交流を支援する会」

横浜市教育委員会

校長の意見具申

横浜市教育委員会への意見書

• 学校運営に関して

SSH担当指導主事の配置等の支援体制

特別予算措置

校長がリーダーシップ発揮できる取組み

• 教職員人事に関して

人事に関わる特例措置の実施

独自採用

教員数の確保

YSFH 特別非常勤講師について

- 教科「サイエンスリテラシー」の指導において、高度な授業や実験等を教授していくため、最先端かつ高度な専門知識・技術を持ち、独創的な研究を推進し、教育への熱い情熱と理念を持った人。
- 「SL」における教科及び実験指導、国際科学オリンピック等に向けた指導等を行える人。
- 博士の学位、3年以上の研究実績を有する人。
- 「ナノテクノロジー・材料及び物理分野」
「生命科学分野」 各1名(週2日、12コマまで)
- 平成26年1月採用から制度化。

- サイエンス教育の深化
ー日常のサイエンス
- 国際科学フォーラム
- 科学コンテストチャレンジの成果
- 卒業生の進路

サイエンス教育の深化 「日常のサイエンス①」

- 和田サロン（←和田昭允常任スーパーアドバイザー）
世界的科学者との意見交換
- ライセンス制度（←小島謙一特別科学技術顧問）
校内分析機器等の操作技術を取得し、
専門家より認定ー目標：各自1ライセンス取得
- スーパーアドバイザーによる講演
藤島昭 東京大学特別栄誉教授 東京理科大学長
ハロルド・クローター ノーベル化学賞受賞者
浅島 誠 東京大学名誉教授

サイエンス教育の深化 「日常のサイエンス②」

- 科学技術顧問との連携
サイエンスリテラシーやサタデー・サイエンスへの
研究機関、大学、企業の積極的支援
- 校外フィールドワーク実施
- 小・中学校や鶴見区等との連携事業
科学実験教室
- 海外研修、国際交流プログラムの活用
サンモールインターナショナルスクールとの連携

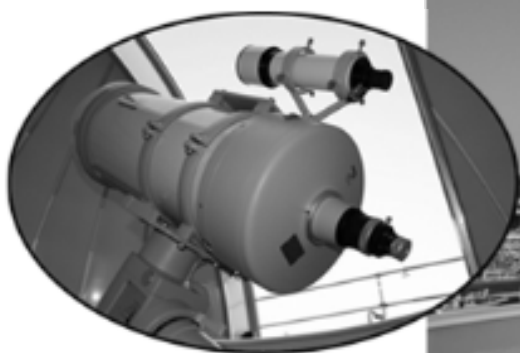
和田サロン



電子顕微鏡室



校内認定ライセンスをとると自分で自主的に利用できる



カセグレン反射望遠鏡(口径300ミリ)

天体観測ドーム

ysfFIRST 2013 (YSFH国際科学フォーラム) (Yokohama Science Frontier Forum for International Research on Sir Harold Kroto Science and Technology)

Nobel Laureate in Chemistry, 1996



下野谷小C60ワークショップ



YSFH生徒 同時通訳



英語ポスターセッション



C60 アーク放電実験

科学コンテストチャレンジの主な成果①

・2010年

◎第3回日本地学オリンピック

優秀賞(全国5位～8位) 1年次生(2期生)

・2011年

◎日本生物学オリンピック2011

金賞(全国5位) 2年次生(2期生)

◎化学グランプリ

銀賞 3年次生(1期生)

◎科学の甲子園・神奈川県大会

準優勝

◎日本地学オリンピック大会

最優秀賞 総合成績第1位 2年次生(2期生)

科学コンテストチャレンジの主な成果②

・2012年

◎シンガポール国際数学チャレンジ大会

Good Presentation賞

◎第2回高校生バイオサミットin鶴岡

農林水産大臣賞 自然科学部

審査員特別賞 2年次生(3期生)

◎スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会

科学技術振興機構理事長賞 3年次生(2期生) 3名
生徒投票賞

◎国際地学オリンピック(アルゼンチン大会)

金メダル受賞 3年次生(2期生)



2012年10月 国際地学オリンピック 金メダル



2013年12月 科学の甲子園
県大会準優勝

科学コンテストチャレンジの主な成果③

・2013年

◎シンガポールブレインキャンプ2013

Research Paper Merit Awards(優秀論文賞)

◎「物理チャレンジ2013」

銅賞

3年次生(3期生)

◎日本生物学オリンピック2013 本選 広島大会

銅賞

3年次生(3期生)

◎第3回 高校生バイオサミット in 鶴岡

環境大臣賞

3年次生(3期生)

優秀賞

3年次生(3期生)

◎第3回科学の甲子園神奈川県大会

準優勝

科学コンテストチャレンジの主な成果④

・2014年

◎Supercomputing Contest 2014(夏の電脳甲子園)

全国4位

◎化学グランプリ

銀賞

2年次生(5期生)

◎JSEC2014

一次予選通過

2年次生(5期生)

◎第4回 高校生バイオサミット in 鶴岡

文部科学大臣賞

3年次生(4期生)

◎第4回科学の甲子園神奈川県大会

第3位

科学コンテストチャレンジの主な成果⑤

・2015年

◎WRO 2015 JAPAN 決勝大会

最優秀賞

2年次生3名(6期生)

11月6日～8日(ドーハ国際大会に出場)

◎生物学オリンピック

銀賞

3年次生(5期生)

◎第5回 高校生バイオサミット in 鶴岡

文部科学大臣賞

3年次生(5期生)

慶應義塾賞

3年次生(5期生)

◎日本植物学会高校生ポスター発表の部

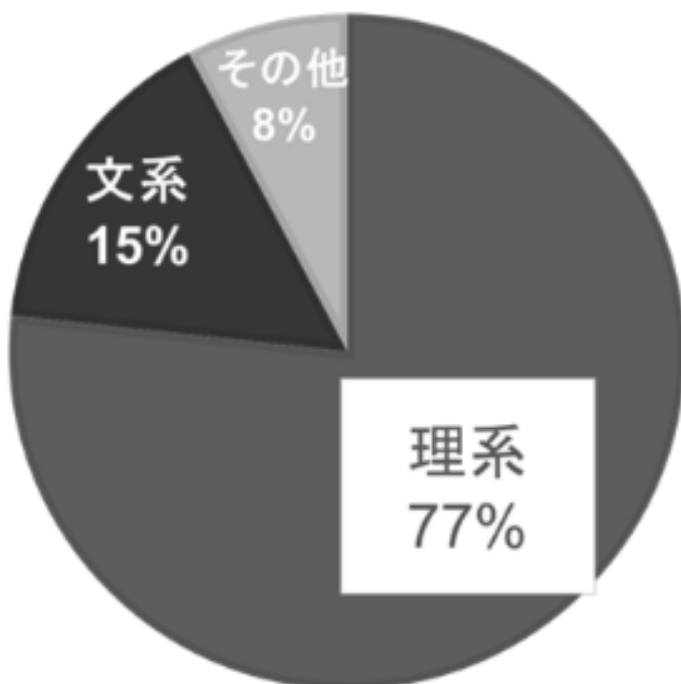
最優秀賞 優秀賞

卒業生の進路先

1～4期生 卒業生総数 933名

国公立大学	328名 (35%)
私立大学	479名 (51%)
大学校	6名
短期大学	6名
専門学校	14名
就職	5名
海外	8名
進学準備その他	87名

進学先の系統 (H27. 3月末時点)



理系

工学, 理学, 医歯薬・保健,
農林水産・獣医

文系

文・外国語, 経済・経営,
社会・国際, 法・政治, 教育

その他

総合・環境・人間・情報,
家政・生活科学, 芸術・体育
など

- 委員会活動・部活動
- サイエンス教室・フィールド活動
- 蒼煌祭(文化祭)
- 中高一貫教育校化基本計画
- 今後の課題

委員会一覧

生徒会事務局

学級委員会

選挙管理委員会

国際交流委員会

地域・環境委員会

サイエンス委員会

図書委員会

メディア委員会

文化祭実行委員会

体育祭・スポーツ大会実行委員会

部活動一覧

●文化部

音楽

天文

写真研究

自然科学

数学・物理(JUMP)

理科調査研究

茶道

英語(English Club)

文芸

軽音楽

棋道

航空宇宙工学

情報工学

計13団体

●運動部

硬式テニス

ソフトテニス

バドミントン

サッカー

バスケットボール

剣道

水泳

卓球

硬式野球

陸上競技

ラグビー

ボクシング

バレーボール

計13団体



「鶴見川の生き物発見！（ダックレース）」



プラネタリウム教室



真鶴フィールドワーク



丹沢中川フィールド活動

蒼煌祭(文化祭)(9月)



文化祭での企業展示
(校内交流センターにて)



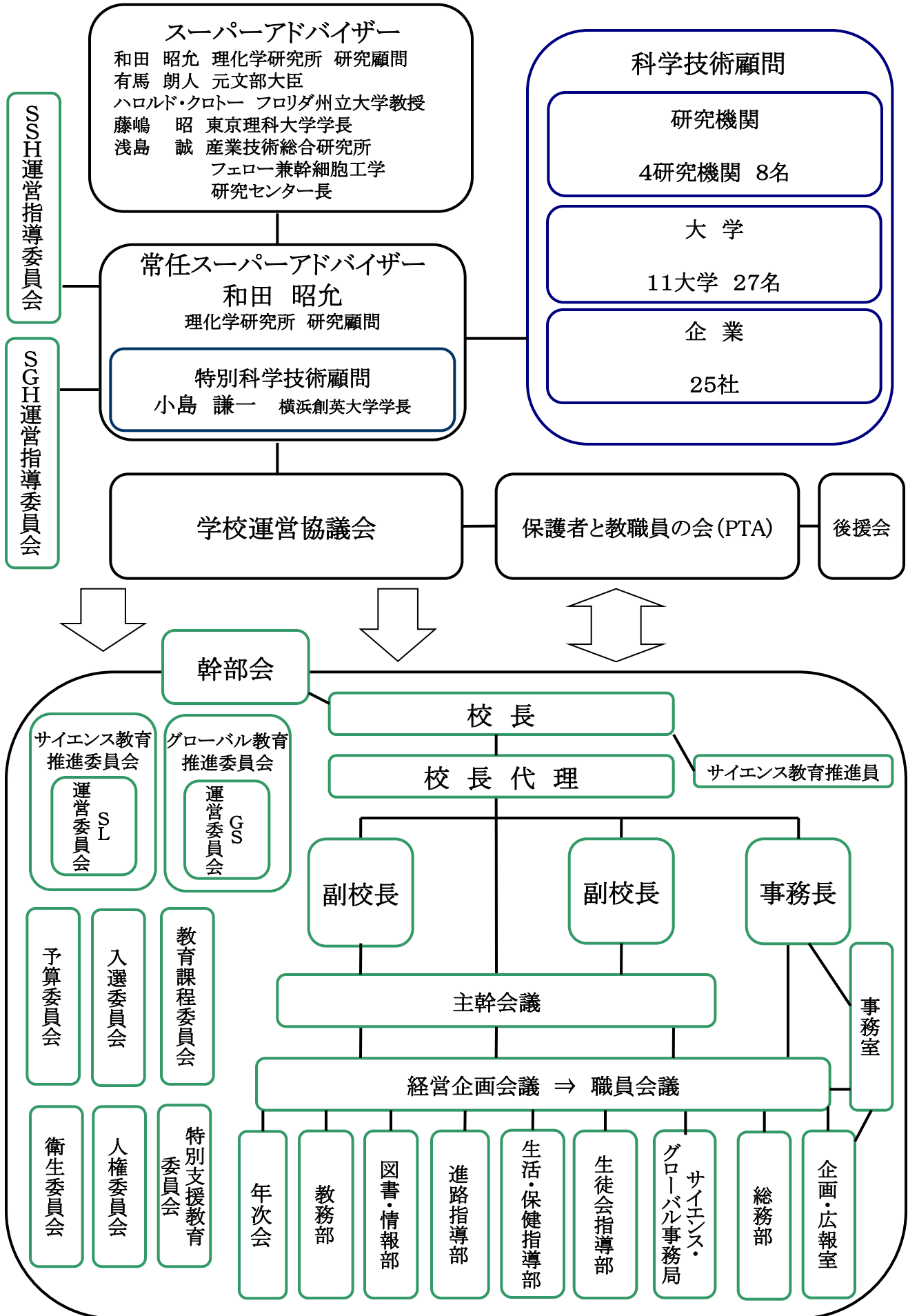
中高一貫教育校化に関する 基本計画策定（平成27年1月）

- ・附属中学校を併設
- ・平成29年4月に開校
- ・附属中学校の規模は2学級
- ・高等学校の規模は6学級
（高等学校募集は4学級）

今後の課題

- ・「教育委員会への意見」の戦略
効果と実行性のある意見へ
- ・教育委員会「第三者評価」との関係
学校関係者評価としての在り方
- ・理解と支援の輪の拡大
地域との連携の推進
- ・他の運営指導委員会等との関係
日程の調整から内容まで

横浜サイエンスフロンティア高等学校 学校運営組織図



横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 学校運営協議会 平成26年度実施報告

学校名 横浜サイエンスフロンティア高等学校

校長名 栗原 峰夫

● 平成26年度の成果と課題

成 果	課 題
<p>○すべての委員から、それぞれの立場や経験に基づいた幅広く、かつ有益な助言を得ることができた。</p> <p>○SSH、SGH、進学指導重点校、中高一貫教育校化検討の取組への一定の評価と理解を得られた。</p> <p>○本校の現状と今後の方向性について、積極的な意見交換が行われた。</p>	<p>○SSHとSGHの相乗効果を図る教育プログラム開発への助言を行っていくこと。</p> <p>○中高一貫教育校化に関して意見を述べていくこと。このことを教育委員会が了承すること。</p> <p>○教員の負担の軽減策を考えるとともに教員研修のプランを検討すること。このことを教育委員会に提案していくこと。</p>

● 平成27年度に向けた取組予定

<p>○本校が横浜市のパイオニア校であることを前提に、教育委員会に対して持続可能な体制作りへの具体的提言(教職員人事や教員研修、予算等について)を積極的に行う。</p> <p>○本校に課せられた、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGH(スーパーグローバルハイスクール)、進学指導重点校、さらに中高一貫教育校化というそれぞれの使命について助言を行う。</p>

● 平成26年度開催状況

回数	日時・場所	議事内容等
第1回	平成26年5月20日(火) 午前9時15分～10時30分 会場:横浜サイエンスフロンティア高校 特別会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員紹介、会長指名、副会長・書記の任命 2 平成25年度報告(学校評価、入学者選抜、卒業生進路実績について) 3 平成26年度学校教育目標及び中期学校経営方針について 4 平成26年度予算について 5 平成26年度前期学校教育活動について 6 進路希望調査について 7 中高一貫教育校化について 8 スーパーグローバルハイスクール(SGH)について
第2回	平成26年9月8日(月) 午後2時～3時30分 会場:横浜サイエンスフロンティア高校 特別会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1 第1回議事録確認 2 前期(4月～9月)学校運営報告 3 後期(10月～3月)学校運営活動予定 4 スーパーグローバルハイスクール(SGH)について 5 中高一貫教育校化について 6 職員研修について
第3回	平成26年12月9日(火) 午前9時30分～10時45分 会場:横浜サイエンスフロンティア高校 特別会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1 第2回議事録確認 2 後期(9月～12月)学校運営報告 3 後期(1月～3月)学校運営活動予定 4 4期生の進路状況報告 5 スーパーグローバルハイスクール(SGH)について 6 中高一貫教育校化について 7 平成27年度校内人事について
第4回	平成27年3月9日(月) 午前9時45分～11時 会場:横浜サイエンスフロンティア高校 特別会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1 第3回議事録確認 2 後期(12月～3月)学校運営報告 3 4期生進路状況 4 学校評価について 5 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)について(再申請及び経過措置申請等) 6 スーパーグローバルハイスクール(SGH)について 7 中高一貫教育校化について 8 平成27年度の予定について

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

○平成27年度 学校経営方針

- ① 「先端科学技術の知識・智恵を活用して、世界で幅広く活躍する人間」の育成を目指し、「サイエンスの力」と「言葉の力」の両方を身に付ける教育を徹底する。
- ② 本校の基本理念に沿った学校経営を推進するとともに、教職員の指導力と学校の組織力を一層向上させ、さらに発展を目指す体制づくりを進める。
- ③ SSH指定校、SSH科学技術人材育成重点採択校、SGH指定校及び横浜市教育委員会進学指導重点校としての取組を充実、発展させ、実績の維持と向上を目指すとともに、中高一貫教育校化の検討を進める。

○平成27年度 経営方針の重点（指導の重点）

- ① 生徒支援の徹底
 - ・「品性高潔」「博学篤志」の精神を涵養し、自学自習の姿勢を育成する。
 - ・社会貢献への意欲、人権意識・国際感覚を重んじて、その育成に努める。
 - ・生徒支援と指導の体制を維持し、状況に応じた適切な対応を進める。
 - ・個人の人格を重んじ、発達段階や能力に応じたきめ細かな指導を徹底する。
- ② 学校の組織力向上
 - ・学校運営協議会等の助言のもと、管理職がリーダーシップを発揮し運営を行う。
 - ・コミュニケーション力、問題解決力を駆使した、建設的な討議を重視していく。
 - ・校務分掌・年次・教科内での連携、組織間の連携、教職員間の連携を強化する。
 - ・丁寧かつ厳格な対処と危機管理の徹底により、事故・不祥事を防止、根絶する。
- ③ 教職員の指導力向上
 - ・SSH及びSGH指定校として、全教職員が指導と運営に積極的に関わる。
 - ・進学指導重点校として、すべての科目で指導力・授業力の一層の向上を目指す。
 - ・過去の実績、データの検証による計画的な進路指導の推進を図る。
 - ・アクティブラーニングを取り入れた学習指導を、すべての教科で取り入れる。
 - ・6年間の成果の活用を図り、教育内容と方法を検証し、継承と見直しを進める。
- ④ 保護者・科学技術顧問・学校・教育機関・地域及び教育委員会との連携
 - ・保護者との連携を密にし、信頼される学校づくりをさらに進める。
 - ・SSH及びSGH指定校として、科学技術顧問や支援機関等との連携を深める。
 - ・地域に対し開かれた学校として、交流の機会をさらに増やしていく。
 - ・情報提供の方法を検討し、各方面へのコンスタントな発信を心掛ける。
 - ・教育委員会との連携を深め、各事業の推進や中高一貫教育校化の検討を進める。
- ⑤ 広報活動の充実
 - ・「企画・広報室」を中心に、総務部、事務室等との連携により広報活動を進める。
 - ・HPを幅広く積極的に活用し、広くタイムリーにかつ効果的に情報を提供する。
 - ・「学校案内」「SFニュース」の内容を精査し、効果的な広報活動を展開する。
 - ・学校説明会、オープンスクール、学校訪問等の内容を検討し、充実を図る。
 - ・HPや「学校案内」の英語版を活用し、海外への発信も進める。